

四 半 期 報 告 書

(第25期第2四半期)

株式会社RVH

目 次

頁

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【事業等のリスク】	4
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	4
3 【経営上の重要な契約等】	7
第3 【提出会社の状況】	8
1 【株式等の状況】	8
2 【役員の状況】	10
第4 【経理の状況】	11
1 【四半期連結財務諸表】	12
2 【その他】	21
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	22

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年11月13日

【四半期会計期間】 第25期第2四半期(自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)

【会社名】 株式会社RVH

【英訳名】 RVH Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 和田 佑一

【本店の所在の場所】 東京都港区赤坂二丁目13番5号

【電話番号】 (03)6277-8031(代表)

【事務連絡者氏名】 IR・広報室長 松崎 奈穂

【最寄りの連絡場所】 東京都港区赤坂二丁目13番5号

【電話番号】 (03)6277-8031(代表)

【事務連絡者氏名】 IR・広報室長 松崎 奈穂

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第24期 第2四半期連結 累計期間	第25期 第2四半期連結 累計期間	第24期
会計期間		自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
売上高	(百万円)	29,544	859	54,523
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	1,262	△180	△26
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純損失(△)	(百万円)	△1,054	△6,342	△1,625
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	△1,056	△6,347	△1,627
純資産額	(百万円)	7,676	757	7,104
総資産額	(百万円)	78,178	4,317	78,875
1株当たり四半期(当期)純損失 (△)	(円)	△54.54	△328.11	△84.09
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	—	—	—
自己資本比率	(%)	9.8	17.5	9.0
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	100	△58	△178
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△511	△1,311	△596
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△142	139	944
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	1,126	620	1,850

回次		第24期 第2四半期 連結会計期間	第25期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2019年7月1日 至 2019年9月30日	自 2020年7月1日 至 2020年9月30日
1株当たり四半期純損失(△)	(円)	△21.72	△68.45

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【事業の内容】

第1四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、子会社株式の譲渡を行い、より限定した事業分野に対する経営資源の集中投下や、当該分野又はその周辺領域への機動的なM&Aを推進することで当社グループの中長期的な企業価値の向上を目指す方針へ転換いたしました。これに伴い、当社の関係会社は、連結子会社が5社、非連結子会社が4社、それぞれ減少いたしました。主要な関係会社の異動は下記の通りであります。

（レディスサービス事業）

株式会社ミュゼプラチナム、株式会社不二ビューティ、株式会社ラブリークィーン

なお、本件株式譲渡に伴い、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」をご参照ください。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

継続企業の前提に関する重要事象等について

当社グループは、第1四半期報告書の「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表注記事項（企業結合等関係）」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間において、レディスサービス事業セグメントに属する子会社株式の譲渡を行っております。これに伴い、当社グループの2021年3月期連結売上高は大幅な減少が見込まれますが、当社といたしましては、引き続き既存事業における収益体質の強化を図るとともに、新規事業領域への進出に向けた積極的なM&A戦略による新たな収益基盤の構築を目指し、当社グループの安定した収益力の確保と企業価値向上に努めてまいります。

従いまして、当第2四半期連結累計期間の末日現在において、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大により、個人消費や企業活動が減退し、景気が急速に悪化いたしました。5月の緊急事態宣言解除後は、経済活動の再開が段階的に進められ、景気動向には一部持ち直しの動きがみられるものの、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの主要取引先である情報サービス産業においては、訪問制限等が徐々に解除され、第1四半期と比較して段階的に顧客との円滑なコミュニケーションが取れる状況となりつつありますが、多くの顧客先では不要不急の経費の削減や投資計画見直しが図られていること等により、一部IT投資計画の中断や遅延が生じる状況が継続しております。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの経営成績は、売上高859百万円(前年同期比97.1%減)、営業損失210百万円(前年同期は営業利益1,180百万円)、経常損失180百万円(前年同期は経常利益1,262百万円)、第1四半期連結会計期間において、特別損益として、株式会社ミュゼプラチナムの株式譲渡に係る関係会社株式売却益356百万円、株式会社ラブリーキーンズの株式譲渡に係る関係会社株式売却損451百万円及び債権放棄損742百万円を計上したこと、当第2四半期連結会計期間において、株式会社トラストベイルに対する債権譲渡代金に係る貸倒引当金繰入額1,270百万円を特別損失として計上したこと等により、税金等調整前四半期純損失2,401百万円(前年同期は税金等調整前四半期純損失218百万円)となり、法人税等合計額3,941百万円を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失6,342百万円(前年同期は1,054百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

なお、上記のとおり、第1四半期連結会計期間において従来の「レディスサービス事業」セグメントに属する全子会社を第三者へ譲渡したことに伴い、第1四半期連結会計期間より、従来の「その他事業」セグメントを再編し、「システム開発」及び「WEBサービス」の2区分に報告セグメントを変更しております。

1) システム開発

当第2四半期連結累計期間におけるシステム開発セグメントでは、顧客のIT投資抑制や案件の延期等により一部新規案件の獲得が停滞した一方、引き続き業務自動化・効率化に係る開発案件の需要が増加したこと等により売上高は474百万円(前年同期比2.2%増)となりました。利益面におきましては、第1四半期において緊急案件に係る外注費が増加したこと、相対的に利益率の高い受託開発案件の新規受注が停滞したこと等から、セグメント損失53百万円(前年同期はセグメント損失43百万円)となりました。

2) WEBサービス

当第2四半期連結累計期間におけるWEBサービスセグメントでは、主に第1四半期において当社グループ美容関連会社の譲渡に伴い一部広告案件が終了したことから、売上高は387百万円(前年同期比72.9%減)となりました。利益面におきましては、引き続き経費削減に注力したこと等により、セグメント利益2百万円(前年同期はセグメント損失49百万円)となりました。

財政状態は、次のとおりであります。

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は1,343百万円(前連結会計年度末と比較して26,650百万円減)となりました。これは主に、レディスサービス事業セグメントに係る子会社株式を譲渡したことにより、受取手形及び売掛金が14,764百万円減少、未収入金が6,915百万円減少、商品及び製品が2,924百万円減少、現金及び預金が1,429百万円減少したこと等によるものであります。

固定資産は2,974百万円(前連結会計年度末と比較して47,907百万円減)となり、これは主に、レディスサービス事業セグメントに係る子会社株式を譲渡したことにより、のれんが24,628百万円減少、有形固定資産合計が7,904百万円減少、繰延税金資産が10,191百万円減少、投資その他の資産のその他が3,220百万円減少したこと等によるものであります。減少した有形固定資産のうち主なものは建物付属設備、工具備品、土地、減少したその他資産のその他のうち主なものは敷金及び保証金であります。

この結果、総資産は4,317百万円(前連結会計年度末と比較して74,557百万円減)となりました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は3,331百万円(前連結会計年度末と比較して53,513百万円減)となりました。これは主に、レディスサービス事業セグメントに係る子会社株式を譲渡したことにより、前受金が45,966百万円減少、未払金が2,401百万円減少、短期借入金が2,075百万円減少、その他が3,040百万円減少した一方、未払法人税等が1,597百万円増加したこと等によるものであります。減少したその他のうち主なものは未払費用であります。

固定負債は229百万円(前連結会計年度末と比較して14,696百万円減)となり、これは主に、レディスサービス事業セグメントに係る子会社株式を譲渡したことにより、長期預り金が14,396百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は3,560百万円(前連結会計年度末と比較して68,210百万円減)となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は757百万円(前連結会計年度末と比較して6,347百万円減)となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等により利益剰余金が6,342百万円減少したこと等によるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）については、以下の活動により、前連結会計年度末と比較して1,229百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末で620百万円となりました。当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、使用した資金は58百万円（前年同期は100百万円の獲得）となりました。これは主に、未収入金の減少額1,052百万円、関係会社債権放棄損742百万円、売上債権の減少額586百万円があった一方、税金等調整前四半期純損失2,401百万円、仕入債務の減少額△549百万円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は1,311百万円（前年同期は511百万円の使用）となりました。これは主に、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入156百万円があった一方、長期貸付けによる支出△1,500百万円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、獲得した資金は139百万円（前年同期は142百万円の使用）となりました。これは主に、長期借入れによる収入190百万円があった一方、長期借入金の返済による支出△48百万円があったことによるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 従業員数

当第2四半期連結累計期間において、当社連結子会社である株式会社ミュゼプラチナム、株式会社不二ビューティ、株式会社ラブリークィーンの全株式を譲渡しております。これに伴い、前事業年度の有価証券報告書に記載した従業員数のうちレディスサービス事業の従業員5,793名が減少しております。なお、従業員数は就業人員（グループ外から当社グループへの出向者を含む。）であります。

(7) 生産、受注及び販売の実績

当第2四半期連結累計期間において、レディスサービス事業セグメントに係る販売実績の発生はございません。これは、当社連結子会社である株式会社ミュゼプラチナム、株式会社不二ビューティ、株式会社ラブリークィーンの全株式を譲渡したことによるものであります。

(8) 主要な設備

前事業年度の有価証券報告書に記載した主要な設備のうち、レディスサービス事業セグメントに係る次のものが減少しております。これは、当社連結子会社である株式会社ミュゼプラチナム、株式会社不二ビューティ、株式会社ラブリーキーンの全株式を譲渡したことによるものであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					
				建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	工具、 器具及び 備品	土地 (面積㎡)	ソフト ウェア	合計
株式会社 ミュゼプラチナム	事務所 (東京都 渋谷区)	レディスサー ビス事業	事務用設備 美容脱毛サロ ン店舗	1,244	462	184	-	174	2,065
株式会社 不二ビューティ	事務所 (東京都 渋谷区)	レディスサー ビス事業	事務用設備 エステティッ クサロン店舗	2,865	11	944	2,547 (4,711)	132	6,501
株式会社 ラブリーキーン	事務所 (岐阜県 岐阜市)	レディスサー ビス事業	事務用設備	0	0	0	0 (1,448)	0	0
他、連結子会社 2社合計	事務所 (東京都 渋谷区)他	レディスサー ビス事業	事務用設備	3	0	6	0 (13)	2	13

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
 2. 上記の金額には消費税等を含めておりません。
 3. 上記のほか、レディスサービス事業セグメントに係る次の賃借設備が減少しております。

会社名 事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	賃借面積 (㎡)	年間賃借料ま たは年間リース料(百万円)
株式会社ミュゼプラチナム ブランド名：ミュゼプラチナム、マキア 店舗(東京都渋谷区)他 全314店舗	レディス サービス事業	店舗	41,099	1,623
株式会社不二ビューティ ブランド名：たかの友梨ビューティクリニック 店舗(東京都港区)他 全77店舗	レディス サービス事業	店舗	14,898	1,213

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	67,700,000
計	67,700,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年9月30日現在)	提出日現在発行数(株) (2020年11月13日現在)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	19,330,560	19,330,560	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 100株
計	19,330,560	19,330,560	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2020年7月1日～ 2020年9月30日	—	19,330,560	—	1,678	—	5,956

(5) 【大株主の状況】

2020年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所 有株式数の割合 (%)
株式会社SPV2号	岐阜県岐阜市加納寿町4-1	1,196,500	6.19
株式会社ユーキトラスト	東京都渋谷区猿楽町5-21	1,130,000	5.85
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1-6-1	720,900	3.73
株式会社SEED	東京都渋谷区恵比寿西1-14-9	650,000	3.36
株式会社アドマンクリエティブ	東京都港区南青山2-7-7	600,000	3.10
楽天証券株式会社	東京都港区南青山2-6-21	464,400	2.40
丸谷商事株式会社	東京都中央区日本橋1-21-4	365,800	1.89
中野 孝一	奈良県生駒郡安堵町	318,200	1.65
厚海 辰也	東京都世田谷区	270,000	1.40
佐藤 安博	神奈川県横浜市港北区	256,400	1.33
計	—	5,972,200	30.90

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 600	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,325,900	193,259	同上
単元未満株式	普通株式 4,060	—	同上
発行済株式総数	19,330,560	—	—
総株主の議決権	—	193,259	

② 【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社RVH	東京都港区赤坂2-13-5	600	—	600	0.00
計	—	600	—	600	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2020年7月1日から2020年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、HLB Meisei有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	※ 2,060	※ 631
受取手形及び売掛金	15,031	266
商品及び製品	2,930	5
仕掛品	48	19
原材料及び貯蔵品	565	0
未収入金	6,916	1
短期貸付金	765	376
その他	1,981	42
貸倒引当金	△2,305	—
流動資産合計	27,993	1,343
固定資産		
有形固定資産	※ 7,920	16
無形固定資産		
のれん	24,628	—
その他	386	18
無形固定資産合計	25,014	18
投資その他の資産		
投資有価証券	1,480	1,457
長期貸付金	3,131	2,722
繰延税金資産	10,237	45
その他	3,301	81
貸倒引当金	△204	△1,366
投資その他の資産合計	17,946	2,939
固定資産合計	50,881	2,974
資産合計	78,875	4,317

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,126	20
短期借入金	※ 2,101	※ 25
1年内返済予定の長期借入金	※ 147	43
未払金	2,514	113
未払法人税等	37	1,634
前受金	45,967	1
賞与引当金	196	14
返品調整引当金	138	—
ポイント引当金	80	—
預り金	1,427	1,411
その他	3,108	67
流動負債合計	56,844	3,331
固定負債		
長期借入金	※ 282	220
長期預り金	14,396	—
退職給付に係る負債	191	1
その他	55	6
固定負債合計	14,925	229
負債合計	71,770	3,560
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,678	1,678
資本剰余金	7,520	7,520
利益剰余金	△2,098	△8,441
自己株式	△0	△0
株主資本合計	7,099	757
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2	0
退職給付に係る調整累計額	7	—
その他の包括利益累計額合計	5	0
純資産合計	7,104	757
負債純資産合計	78,875	4,317

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	29,544	859
売上原価	4,708	709
売上総利益	24,836	149
返品調整引当金戻入額	473	—
返品調整引当金繰入額	412	—
差引売上総利益	24,897	149
販売費及び一般管理費	※ 23,716	※ 360
営業利益又は営業損失(△)	1,180	△210
営業外収益		
受取利息	95	28
受取配当金	6	0
その他	57	6
営業外収益合計	159	35
営業外費用		
支払利息	47	4
その他	29	0
営業外費用合計	76	5
経常利益又は経常損失(△)	1,262	△180
特別利益		
固定資産売却益	1	—
関係会社株式売却益	—	356
移転補償金	21	—
その他	0	3
特別利益合計	22	359
特別損失		
減損損失	390	67
貸倒引当金繰入額	1,065	1,270
関係会社株式売却損	30	451
関係会社債権放棄損	—	742
その他	18	48
特別損失合計	1,504	2,580
税金等調整前四半期純損失(△)	△218	△2,401
法人税、住民税及び事業税	18	1,558
法人税等調整額	817	2,382
法人税等合計	835	3,941
四半期純損失(△)	△1,054	△6,342
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,054	△6,342

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
四半期純損失(△)	△1,054	△6,342
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1	2
退職給付に係る調整額	—	△7
その他の包括利益合計	△1	△4
四半期包括利益	△1,056	△6,347
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,056	△6,347

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△218	△2,401
減価償却費	625	7
のれん償却額	962	14
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,088	217
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△60	—
受取利息及び受取配当金	△101	△28
関係会社株式売却損益(△は益)	—	95
減損損失	390	67
関係会社債権放棄損	—	742
売上債権の増減額(△は増加)	△2,425	586
たな卸資産の増減額(△は増加)	△490	21
未収入金の増減額(△は増加)	798	1,052
仕入債務の増減額(△は減少)	76	△549
未払金の増減額(△は減少)	285	△41
前受金の増減額(△は減少)	159	△0
未払費用の増減額(△は減少)	92	△0
預り金の増減額(△は減少)	△205	△1
事業譲受対価の見直しに伴う債権債務の増減額	△1,184	—
未払法人税等(外形標準課税)の増減額(△は減少)	—	73
その他の流動資産の増減額(△は増加)	168	8
その他	140	36
小計	101	△100
利息及び配当金の受取額	111	48
利息の支払額	△45	△4
法人税等の支払額	△66	△3
法人税等の還付額	0	1
営業活動によるキャッシュ・フロー	100	△58
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△773	△3
無形固定資産の取得による支出	△52	—
長期貸付けによる支出	—	△1,500
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	156
敷金及び保証金の差入による支出	△70	△0
敷金及び保証金の回収による収入	248	1
長期貸付金の回収による収入	78	31
保険積立金の解約による収入	57	—
その他	△0	4
投資活動によるキャッシュ・フロー	△511	△1,311
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	20	190
長期借入金の返済による支出	△153	△48
その他	△8	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△142	139
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△553	△1,229
現金及び現金同等物の期首残高	1,659	1,850
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	21	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 1,126	※ 620

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当社は、2020年4月に株式会社ミュゼプラチナム及び株式会社不二ビューティの全株式を、2020年6月に株式会社ラブリークィーンの全株式を第三者へ譲渡しております。本件株式譲渡により、第1四半期連結会計期間より、当社グループは連結子会社5社、非連結子会社2社の構成となっております。

(追加情報)

(会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りの仮定につきましては、前連結会計年度の有価証券報告書の追加情報に記載した内容から重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

※ 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
現金及び預金	200百万円	10百万円
建物	441	—
機械装置	462	—
土地	2,059	—
計	3,163	10

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
短期借入金	1,400百万円	10百万円
1年内返済予定の長期借入金	96	—
長期借入金	210	—
計	1,706	10

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
給料手当	8,520百万円	71百万円
賞与引当金繰入額	352	2
退職給付費用	8	1
租税公課	114	100
貸倒引当金繰入額	14	—
広告宣伝費	4,673	0
のれん償却額	962	14

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
現金及び預金勘定	1,441百万円	631百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△315	△10
現金及び現金同等物	1,126	620

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

配当に関する事項

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

配当に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	レディス サービス事業	システム開発	WEBサービス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	28,972	464	107	29,544	—	29,544
セグメント間の内部売上 高又は振替高	13	—	1,320	1,334	△1,334	—
計	28,986	464	1,428	30,879	△1,334	29,544
セグメント利益又は損失 (△)	1,262	△43	△49	1,169	11	1,180

(注) 1. セグメント損益の調整額11百万円には、セグメント間取引消去131百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△120百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2. セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「レディスサービス事業」セグメントでの事業譲受対価の変動により、当第2四半期連結累計期間において、のれんが774百万円増加しており、また、「WEBサービス」セグメントにおいて一部子会社にて当初想定していた収益が見込めなくなったため減損損失356百万円を計上しております。

また、「レディスサービス事業」セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間より、非連結子会社であった株式会社イナンナを、重要性が増したため連結の範囲に含めております。これに伴うのれんの増減額は、第2四半期連結累計期間において567百万円であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	レディス サービス事業	システム開発	WEBサービス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	—	474	384	859	—	859
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	0	2	2	△2	—
計	—	474	387	861	△2	859
セグメント利益又は損失 (△)	—	△53	2	△50	△160	△210

(注) 1. セグメント損益の調整額△160百万円には、セグメント間取引消去27百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△187百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2. セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

第1四半期連結会計期間において、当社連結子会社である株式会社ミュゼプラチナム、株式会社不二ビューティ、株式会社ラブリーキーンの全株式を譲渡し、連結の範囲から除外したことにより、レディスサービス事業セグメントののれんの金額が減少しております。なお、当該事象によるのれんの減少額は24,545百万円であります。

また、第2四半期連結会計期間において、「WEBサービス」セグメントにおいて一部子会社にて当初想定していた収益が見込めなくなったため減損損失67百万円を計上しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来「レディスサービス事業」、「その他事業」として記載していた報告セグメントにつきましては、第1四半期連結会計期間において「レディスサービス事業」セグメントに属する全子会社を第三者へ譲渡したことに伴い、第1四半期連結会計期間より、従来の「その他事業」セグメントを再編し、「システム開発」及び「WEBサービス」の2区分に報告セグメントを変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
1株当たり四半期純損失(△)	△54円54銭	△328円11銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)(百万円)	△1,054	△6,342
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失(△)(百万円)	△1,054	△6,342
普通株式の期中平均株式数(株)	19,329,960	19,329,960

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月12日

株式会社RVH
取締役会 御中

HLB Meisei有限責任監査法人

東京都中央区

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 武田 剛 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉田 隆伸 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社RVHの2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社RVH及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。